

2020.7.18

紙つぶて

コロナ禍を経て、「新しい生活様式」なる言葉が登場した。内容を見れば、それは単に「新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための生活様式」であり、本来そう呼ぶべきものだと思う。

私は「新しい生活様式」という言葉に抵抗を感じる一人である。それは決して私だけではないと思う。コロナ禍はさまざまな形で、さまざまな意味で、人々に大きな影響を与えた。個人の健康や生命のためにも、また疲弊した医療現場のためにも、感染拡大の防止は重要なことだ。それは多くの人が納得するだろう。ワクチンもない今、生活の形態が変わることはやむを得ない。

しかし人生において重要なことは「ウイルスの

「新しい生活様式」?

水島 広子



感染拡大を防止すること」だけではない。今「新しい生活様式」と呼ばれているものは、期限もなければ、もっぱら感染症に関するものである。「新しい」と呼ぶ際には、これからも続く未来を感じさせるものであるべきだ。

このコロナ禍の中、それぞれが何を体験して、これからの人生をどう過ごしていこうと考えるようになったかは、その本人にしかわからないことだ。あまりに公的に「新しい生活様式」と言われると、生き方や価値観を押しつけられている感覚になる。この全世界的な出来事を経て、どのように生きていくかは、衛生問題に限らず、それぞれが考えていく性質のものだと思う。(精神科医)